

# Look Malaysia!

～多民族化で変わる私たちの暮らし～

マレーシア 人口問題班

2年2組 20番 草場 藍香

13番 石山 優香

28番 高林 未羽

3番 嶋津 龍太郎

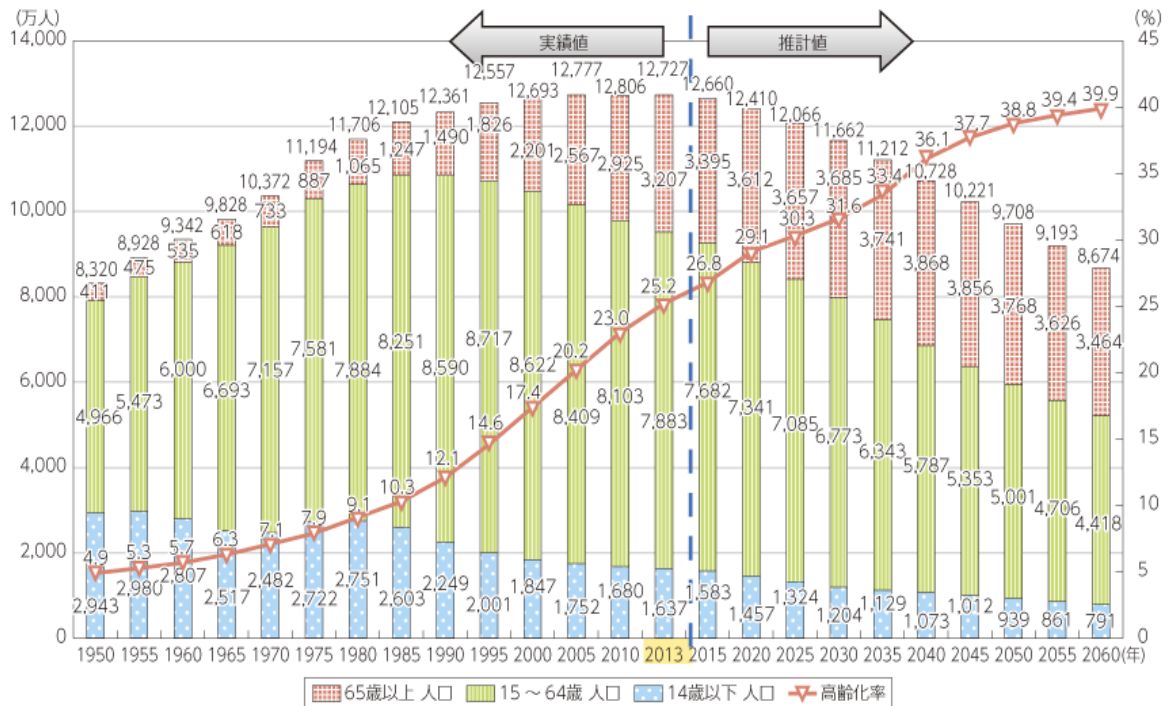
10番 渡邊 輝

指導教員 佐藤 賢

## 1. 背景

日本は現在、少子化や高齢化などの多くの人口問題を抱えている。その中でも特に私たちが注目したのは少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少である。15～64歳の生産年齢人口は2013年10月時点で7,901万人と32年ぶりに8000万人を下回ったことに加え、2013年12月時点では7,883万人まで減少しており、今後の予測では2060年には4,418万人まで大幅に減少することが見込まれている。

図表 1) 高齢化の推移と将来推計



出典：総務省

日本では、少子化対策として地方自治体や国で様々な取り組みが行われているが、効果のあった取り組みもある中で少子化は進行し続けている。これからますます進行していく少子高齢化社会を支える「労働人口」の減少は多く抱える人口問題の中でも特に注目すべき点なのではないだろうか。平成17年の我が国の出生数は死亡数を下回った。合計特殊出生率は1.25と過去最低となり、人口減少に伴う将来の成長率の低下の問題を背景に、私たちは労働人口の減少を食い止めるにあたってすぐに効果が出ると思える、海外からの「移民の受け入れ」が必要であると思える。私たちは移民を受け入れた後の多民族社会の模範として、毎年本校人間文科コースが訪れている国であるマレーシアは、世界の中で多民族国家として代表的な例であり、そういった多民族国家として成り立っているという現状とともに「民族間の格差・差別」などが問題となっていることが分かった。このことを踏まえて日本の「労働人口」を増加させるために移民を受け入れることがうまくいくのかどうかを見極めるため、マレーシアのこれらの現状を参考に調査を進めようと思う。

## 2. 現状・分析

マレーシアの現状として民族構成はマレー系が6割、中華系が3割、インド系が1割となっている。マレーシアでは、マレー系の人々が中華系の人々と比べて経済的に不利であるという問題を解消するために「ブミプトラ政策」という優遇政策が制定された。ブミプトラ政策の制定により、よりマレー人が就職、進学などにおいて優遇されるような体制がとられており、実際にその成果が表れている。

図表2) ブミプトラ政策の実績 (1970～2000年代)

〈A：民族別世帯月額収入〉 単位：リンギット、% (ブミプトラ=100)

	1970年	1990年	2000年	2003年
ブミプトラ(マレー人)	172 (100)	931 (100)	1,984 (100)	3,156 (100)
華人	394 (224)	1,592 (171)	3,456 (174)	4,853 (154)
インド人	304 (177)	1,201 (129)	2,702 (136)	3,794 (120)

(出所) ①、③、④

〈B：株式資本の民族別所有比率〉

(%)

	1970年	1990年	2000年	2006年
ブミプトラ(マレー人)	1.9	19.3	18.9	19.4
華人	22.5	45.5	38.9	42.4
インド人	1.0	1.0	1.5	1.1
外国資本	60.7	25.4	31.3	30.1
証券信託会社	13.9	8.5	8.5	6.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) ①、③、④

〈C：製造業における民族別就業人口比率〉

(%)

	1970年	1990年	2000年	2003年
ブミプトラ(マレー人)	21.2	46.4	53.9	54.5
華人	71.7	37.9	33.1	32.6
インド人	7.0	11.0	12.5	12.4
総計	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) ①、②

①Malaysia (1991) The Second Outline Perspective Plan 2000-2002.

②Malaysia (2003) Mid-Term Review of the Eighth Malaysia Plan 2001-2005.

③Malaysia (2006) Ninth Malaysia Plan 2006-2010.

④Malaysia (2008) Mid-Term Review of the Ninth Malaysia Plan 2006-2010.

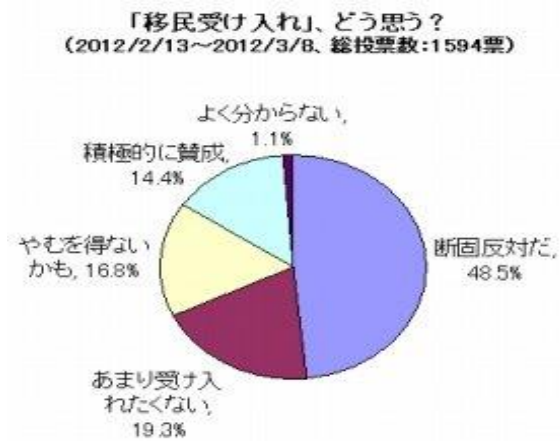
(出典) 小野沢純「ブミプトラ政策」『マレーシア研究』第1号

しかし、ブミプトラ政策の制定が全ての民族間の問題を解決することができたとはとても言い難い。特定の民族の優遇政策の制定により、当然ながらマレー人以外の民族には不満が生まれ、マレー人は優遇政策に甘んじる傾向にあり、民族間の格差を是正するために制定されたブミプトラ政策が多民族社会のあり方を良くない方向へと導いたという捉え方も可能であると考えられる。

また、マレーシアには宗教がたくさんある。主に、イスラム教(61%)、仏教(20%)、儒教・道教(1.0%)、ヒンドゥー教(6.0%)、キリスト教(9.0%)、という構成となっており、例えば、マレーシアでは都市部では少ない、地方での中国系の民族の人々が経営している店に多民族が入るのを拒むといった宗教的な対立が問題となっている。

一方、日本の現状としては労働人口の減少が挙げられ、それを解決するには移民の受け入れを積極的に行っていくべきであると述べたが、日本人を対象に行われた『「移民受け入れ」、どう思う?』というアンケートにおいて、「断固反対だ」と答えた人が48.5%、「あまり受け入れたくない」と答えた人が19.3%、「やむを得ないかも」と答えた人が16.8%、「積極的に賛成」と答えた人が14.4%、「よく分からない」と答えた人が1.1%という結果になっており、約7割の人が移民の受け入れに対し反対意見を持っているということが分かる。

図表 3) アンケート：「移民受け入れ」、どう思う？



つまり、今の日本人の意識のまま移民を外国人労働者として受け入れるとなると、日本人の移民の人々に対する理解の不足により移民の人々が過ごしにくい雰囲気・環境が生じたり、最悪の場合、差別などに発展したりする可能性も考えられる。よって移民の受け入れにおいて、いかに日本人の意識をお互いがよりよい関係を築けるようないい方向性へと向けることができるのかを考える必要がある。また、日本でもブミプトラ政策のような自民族（日本人）に対する優遇政策が制定される可能性も否めない。

### 3. 目標

以上の現状を踏まえ、日本で移民を受け入れ、多民族社会となるにあたって、移民同士及び日本人と移民の対立を防ぐために参考にできるマレーシアでの人口問題として

- (1) 民族間の対立により生活区画が区切られ同じ民族で集まる傾向がある
- (2) 労働において民族間の格差が目立つ

といったことが挙げられ、また移民の受け入れ後に日本で起こるであろうと予想される問題として、

- (3) 移民に対する日本人の理解不足から生じるトラブルの発生

といったことが挙げられる。

これらの問題を参考にし、実行すべきだと考える 3つの対策・解決策として、

- (1) 民族間の対立により、生活区画が区切られる、同じ民族で集まる傾向が強まりすぎないようにする。
- (2) 労働において民族間の経済的な格差やブミプトラ政策のような優遇政策が生まれないようにする。
- (3) 移民に対する「日本人」の理解不足などを解消し、移民の人々が過ごしにくい環境が生まれないようにする。

の三つを目標とし、具体的な取り組みを行っていくことによって移民同士及び日本人と移

民の対立の多くを防ぐことが可能なのではないかと考える。

#### 4. 結果検証

移民の受け入れの形として「子どものいる家族」をターゲットとし、一家で移住してもらうことを前提とする。理由は以降、それぞれの詳細計画と照らし合わせながら述べていきたいと思う。

私たちは、対策・解決策 (1)、(2)、(3) を実行していくためにそれぞれ三つずつの具体的な取り組みを提案する。

##### (1) 統合教育機関の運営

民族間の対立により、生活区画が区切られる、同じ民族で集まる傾向が強まりすぎないようにするために、幼稚園・保育園・小・中学校を統合教育機関として運営することが良いと考える。統合教育機関として運営することで生まれると予想されるメリットは大きく分けて二つある。

まず一つ目は、民族ごとでクラスを分けず民族混合のクラスとすることによって、日本人も含め、子どもの内からいろんな民族の人と接するのが当たり前の環境の中での生活を通して、大人になっても強い民族意識が生まれないようにすることができるのではないかとこのメリットである。これは、移民の受け入れの形を「子どものいる家族」とする理由の一つである。移民、つまり私たちの提案である「移民の受け入れ」の一番大きな目的である労働人口の確保という点から、「労働人口＝大人の移民」というイメージが強いと思う。しかし、今すぐに働くことのできる大人の移民ももちろん大事だが、同時に将来的に日本で働くこととなる「子どもの移民」に焦点を当てるのが大事だと考える。

そして二つ目が、日本人の英語能力の向上が見込まれるというメリットである。

図表 4) アジア(一部省略)における TOEFL スコアデータ

Geographic Region and Native Country	Reading	Listening	Speaking	Writing	Total
Japan	18	17	17	19	71
China	20	19	19	20	79
India	22	23	23	24	93
Korea	22	21	20	21	84
Hong Kong	21	22	22	22	87
Indonesia	21	21	21	21	84
Malaysia	22	23	22	23	90

⋮	⋮
---	---

出典：Test and Score Data Summary for the TOEFL iBT® Tests

TOEFL のスコアデータによると、日本は周辺のアジア諸国に比べて英語能力が乏しく、特に気になるのが「Listening」と「Speaking」におけるスコアの低さである。日本での英語の授業の中で英語を話したり聞いたりすることは日本人の英語能力の向上に関わっているものの、英語を話せる外国人と実際に会話することこそが「聞くこと」、「話すこと」の能力の向上によりいっそう深く関わるのではないかと考える。こうした日本が移民を受け入れていないということによる外国人とのコミュニケーションの機会が少なさなどのデメリットは、世界と比べた日本人の英語能力の低さに顕著に表れているのではないかと考える。統合教育機関では、日本で働いてもらうために移民の人々に「日本語」を学んでもらうのではなく、日本人も移民も共通言語として「英語」を、授業+移民の人々との日常のコミュニケーションを通して学ぶことが必要であると考え。英語に触れる取り組みを子どもの内から習慣化しておくことによって英語の能力の向上が見込め、将来日本の企業で働く時に、日本国内で日本人と移民の人々とのコミュニケーションがよりスムーズに行うことができると予想できる。

## (2) 「民族別労働相談室」の設置

労働において民族間の経済的な格差や、ブミプトラ政策のような優遇政策が生まれにくいようにするために、「民族別労働相談室」を設置することが良いと考える。英語を話すことができる人材を職員として雇用し、労働における相談が可能な機会を設けることにより労働における問題を企業が把握しやすくなる。移民の人々が日本で企業に勤めるとなると、言語の違いや価値観・考え方の違い、慣習の違いなどの問題と直面することになると予想される。そうした問題のうち、解決できるものは早急に解決に努めることにより、移民の人々にとって不安や不満の少ないよりよい労働環境をつくりだすことができると考える。

## (3) 移民や多民族社会について深く知ってもらう機会を設ける

移民に対する「日本人」の理解不足は、図表 2 の円グラフから読み取れるように著しいものとなっている。確かに移民を受け入れることによるデメリットは多い。例えば、犯罪率の上昇や日本文化の変容などである。しかし、図表 3 のアンケートで「反対だ」と答えた約 7 割の日本人の意見は、移民や外国人について深く知り、移民の受け入れのデメリットを理解した上での意見ではなく、移民について興味がない、または、移民に関する知識が浅いままの意見が多いのではないだろうかと推測する。そういった人にとって「移民についてどう思うか」という質問は「日本人という民族が暮らしている国に他の民族が侵入してきたらどう思うか」といった意味で捉えられても仕方のないことなのではないかと考える。こうした理解不足を解消し、移民の人々が過ごしにくい環境が生まれないようにするためには、移民や多民族社会について日本人に深く知ってもらう機会を設ける必要があると考える。例えば、外国人労働者の雇用によってより成果を上げている職業を知ってもらうことが一つとして挙げられる。私たちに身近な例で言うと、中学校・高等学校などに配属されている ALT (Assistant Language Teacher) の存在である。他にも、いろんな民族の人が参加し、交流しやすいようなイベントを設けることなどが挙げられた。例えば、「各国の文化交流」といったテーマのイベントなどが良いのではないかと考える。今、世界中が「グローバル化」という言葉に表されているように、お互いの文化についてより知ることこそが深い相互理解につながると考える。そこで、民族ごとにブースを作り、各国の民族が自らの文化を発信できるような機会を設ければ、その文化に興味を持ったほかの民族の人と、発信した民族の人との間の理解はより深まり、お互いの興味も高めることができるのではないだろうか。

これらの取り組みを行っていく上での未解決問題がいくつかある。一つ目は日本人と移民がともに英語が定着していないうちのコミュニケーションをどのように行っていくかという点である。移民の受け入れ直後は、日本人にも移民にも世界共通言語である英語が定着していないため、日本人と移民との間の意思の疎通が困難になることが予想される。二つ目は、宗教間の対立をどのように解決していくかという点である。日本でも移民を受け入れた後に、先ほど「現状・分析」で述べたような宗教的な対立や排斥などが起こることが予想される。三つ目は、それぞれの取り組みをどの機関(国や県、企業など)の単位で行うかという点である。それぞれの取り組みを実行に移すのに、非常に時間を要す予想されるため、より効率的に実行へと移していくにはどの機関、どの単位で取り組みを進めていくのが最も適切であるのかを見極める必要がある。四つ目は、すでに日本人と外国人労働者の間にある格差をどう埋めていくのかという点である。現状として日本で働く日本人と外国人の給料には格差があり、移民受け入れ後も同様に日本人と移民の間に給料などの格差が新たに生まれることが予想される。

## 5. 解決策 (まとめ)

日本の生産年齢人口の減少を食い止めるにあたって必要となる海外からの「移民の受け

入れ」を、日本人と移民の人々のお互いがいかに不安や不満の無いような形にすることができるのかは、受け入れる立場である私たち日本人の手にかかっている。移民を受け入れ、「多民族国家になるとあたってどのような問題を懸念し、どのようにして解決に導くか」ということを考えるにあたって、マレーシアなどの「多民族国家」で実際にどのような問題があり、どのような工夫がなされているのかを私たちは学び、考えていく必要があるということが分かった。さらに、日本で学ぶことに加え、私たちは学んだことを実際に現地に行って自分自身で見て感じることができ、よい深い理解と知識を得られたのではないかと思う。現地に赴き学んだこと、そしてこの課題研究を通して考えた今後の日本と移民の受け入れの必要性や受け入れに伴うメリット・デメリット、発生が予想される問題などを考慮しながら私たちがよりよい形へと導いていく必要がある。

#### 【参考文献・引用文献】

- ・ 山田満 (2000) 『多民族国家マレーシアの国民統合』 大学教育出版。  
[http://factsanddetails.com/southeast-asia/Malaysia/sub5\\_4c/entry-3644.html](http://factsanddetails.com/southeast-asia/Malaysia/sub5_4c/entry-3644.html)
- ・ MOFA: Look East Policy – The Challenges for Japan in a Globalized World  
<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/malaysia/pmv0212/speech.html>
- ・ Test and Score Data Summary for the TOEFL iBT® Tests | ASIA  
[https://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227\\_unlweb.pdf](https://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf)
- ・ 内閣府 | これまでの少子化対策の取り組み  
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/data/torikumi.html>
- ・ 総務省 | マレーシア基礎データ  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html>
- ・ 総務省 | 我が国の労働力人口における課題  
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h26/html/nc141210.html>
- ・ J-CAST ニュース | 移民受け入れ「断固反対」約半数  
<https://www.j-cast.com/2012/03/08124810.html>
- ・ 小野沢純「ブミプトラ政策」『マレーシア研究』第1号  
[http://jams92.org/pdf/MSJ01/msj01\(002\)\\_onozawa.pdf#](http://jams92.org/pdf/MSJ01/msj01(002)_onozawa.pdf#)
- ・ 野呂夏雄「外国人労働者と移民の受け入れ」  
<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/report/rp0202.pdf>
- ・ 福岡県庁ホームページ  
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/>
- ・ マレーシアガイド  
<http://malaysiajp.com/>
- ・ JETRO-マレーシアにおける医療・社会福祉サービスに関する調査報告書 (2014/1)  
<https://www.jetro.go.jp/world/reports/2014/07001563.html>
- ・ 山脇啓造・近藤敦・柏崎千佳子「移民国家日本の条件」  
<http://intercultural.c.ooco.jp/data/migration.pdf>
- ・ ケース 6.3 東南アジアの移民国家のジレンマ——マレーシア  
[http://www.unp.or.jp/images/age-of-migration/case6.3\\_aom.pdf](http://www.unp.or.jp/images/age-of-migration/case6.3_aom.pdf)
- ・ 廖大珂「マレーシアにおける中国新移民」  
[http://www.eco.nihon-u.ac.jp/center/ccas/pdf/ccas\\_wp036.pdf](http://www.eco.nihon-u.ac.jp/center/ccas/pdf/ccas_wp036.pdf)
- ・ マレーシアの情報-JTB  
[https://www.jtb.co.jp/kaigai\\_guide/asia/malaysia/index.html?t=info](https://www.jtb.co.jp/kaigai_guide/asia/malaysia/index.html?t=info)
- ・ 須藤一紀「よくわかる日本の人口」



[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/monthly/pdf/0604\\_a.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/monthly/pdf/0604_a.pdf)

- 市内の外国人が世界の文化を紹介-PRESS RELEASE

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000015/15716/20171010.pdf>

- 山崎隆志「外国人労働者の就労・雇用・社会保障の現状と課題」

[http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/refer/200610\\_669/066902.pdf#search=%27%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E5%8A%B4%E5%83%8D%E8%80%85+%E6%88%90%E6%9E%9C%27](http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/refer/200610_669/066902.pdf#search=%27%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E5%8A%B4%E5%83%8D%E8%80%85+%E6%88%90%E6%9E%9C%27)